

北総版 授業力向上のポイント

必見

～授業の前に確認するはじめの一步～



授業力向上のために、ぜひ確認してほしい
ポイントです。日々の授業で活用してみましょう。

小学校
外国語活動・外国語科

チェックを
入れてみよう。

1 単元（本時）終了時点での目指す児童像を明確にした上で 授業プランを立てましょう。

- 単元終了時までにはどのような力を身に付けさせたいか、目指す姿を見据えて、ゴールから逆算して単元全体の計画や段階的な目標を定めます。目指す姿を児童と共有しましょう。
- インプットでは画像や映像、様々な音声の活用、アウトプットでは、動作を交えながら自分の気持ちや考えを伝え合うことができるように準備や言葉掛けをしましょう。
- 外国語そのものだけでなく、背景にある文化に対する理解を深め、他者への配慮、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことを意識した授業を目指しましょう。

2 英語を楽しんで発言できる雰囲気を作りましょう。

- うまくいかないときにも励まし合えるクラスの雰囲気が土台となります。
- 他者とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、個々の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫しましょう。
- 授業者も、ALT の発言を繰り返すなど、共に学んでいく様子を積極的に示していきましょう。
- 学習のスタートラインをそろえましょう。（例：既習事項の確認、買い物の場面でのやりとり…経験の有無を踏まえたり、手順、店員の役割などを噛み砕いて説明したりしておくとう効果的な場合があります。）

3 効果的な TT で授業の充実を図りましょう。（資料1・P108～113）

- ALT との打合せ時間が取れない場合も、メモ等で授業内容を知らせます。音読やリピートのみではなく、授業者とのやりとりを児童に見せるなど、ALT を活用する場面を設定しましょう。
- ALT が英語で指示を出す場面で授業者は、既に慣れ親しんだ表現や、児童自身に考えさせることが望ましい表現などでは、言い方を変えながら根気強く一緒に英語で伝えていきましょう。児童の反応によって日本語での支援を行うなど、実態に応じて適切にサポートを行いましょう。
- ALT との会話では、授業者が率先して“Please～.”や“Thank you.”などコミュニケーションを円滑にする言葉を取り入れ、相手への配慮を忘れずに主体的に英語でやりとりを楽しむ姿を見せることで、児童へ目指す姿を示すことができます。



（資料1）小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省）
https://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/gaikokugo/1387503.htm

（資料2）「達人の授業解説動画」（千葉県教育委員会）※YouTube 限定配信
<https://youtube.com/playlist?list=PLjalza9HHe9GDPC47kmB3RECKd1ooWXzM&si=bWcDrWYhAc7vUm7M>



北総版 授業力向上のポイント

必見

～授業の前に確認するはじめての一步～



授業力向上のために、ぜひ確認してほしい
ポイントです。日々の授業で活用してみましょう。

中学校
外国語科

チェックを
入れてみよう。

1 単元（本時）終了時点での目指す生徒像を明確にした上で 授業プランを立てましょう。

- 「聞く」「読む」「話す（やり取り）」「話す（発表）」「書く」それぞれの到達目標から、本単元において、どのような言語活動を通して、どのような資質・能力を育成したいのか検討します。
- 小学校での学習内容や既習項目、他教科との関連等、系統性を考慮して計画します。
- 生徒の実態から、「学習のスタートラインをそろえる」ための手立てについて検討し、必要に応じて、既習事項や題材への補足説明など、本時の学習の前提となる知識を共有します。
- 生徒一人一人の「見いだす」「自分で取り組む」「広げ深める」「まとめあげる」場面を設定し、主体的、協働的に学習できる授業と深い学びを目指しましょう。

2 生徒が想像しやすい目的・場面・状況を設定した言語活動を準備しましょう。□

- 生徒が自分で思考・判断・表現ができるよう、「何のために」、「だれに対して」、「どのような場面や状況で使う表現か」を明確にした言語活動を設定しましょう。
- 言語活動を通した指導を目指しましょう。
(文法の習得をゴールとせず、学習した知識・技能を活用させる場面を設定します。)
- 機械翻訳の使用については、授業の目標を踏まえて、事前に注意点やルール等を共有しましょう。

3 目標や活動に合わせた評価方法・場면을計画しましょう。□

知識・技能 □言語材料の「正確さ」を評価する。

例：○特定の言語材料に焦点を当てた活動（資料1・P78参照）

思考・判断・表現 □内容の「適切さ」を評価する。

例：○目的・場面・状況を明確にした上で、生徒が自分で考えたり、判断したり、表現方法を工夫したりする活動 ○生徒自身が、既習事項を自由に選択・活用する活動（資料1・P54～55参照）

主体的に学習に取り組む態度 □基本的には「思考・判断・表現」と一体的に評価する。

「自己調整」を図るための例：①学習の開始時点「目標設定」「目標設定のための工夫」振り返り
②学習の途中段階「目標設定のための工夫」について学び合い ③学習の終了時点 目標の再確認、
「成長や課題」「なぜそう思うか」について振り返り（資料1・P81～82参照）



（資料1）

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_gaikokg.pdf

（資料2）

「達人の授業解説動画」（千葉県教育委員会）※YouTube 限定配信
<https://youtube.com/playlist?list=PLjalza9HHe9GDGP47kmB3RECKd1ooWXzM&si=bWcDrWYhAc7vUm7M>

